令和6年度 第5回子ども・子育て会議 会議録

- ・開催日時 令和7年2月7日（金）午後3時15分～4時30分
- ・開催場所 燕市役所 会議室301
- ・出席委員 小池会長、田邊副会長、込山委員、澤口委員、伊藤委員、渡邊委員
宮路委員、二平委員、小池委員、南波委員、白戸委員、橋本委員
- ・事務局 こども政策部：白井部長
こども未来課：横田課長、坂本課長補佐、中濱主任保育指導主事
大坂係長、荒木係長
子育て応援課：鈴木課長、番場副参事、濱田係長
学校教育課：関根統括指導主事、星野係長
株式会社サーベイリサーチセンター

・会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) 燕市子ども計画（案）について
 - (2) 令和7年度の保育園・こども園・児童クラブの申込状況について
- 4 その他
- 5 閉会

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1) 燕市こども計画（案）について

→資料1に基づき説明

(会長)

質問や意見はありますか。

基本的な方向性は、この最終案のとおり進めていきます。ここまで計画策定に携わってき

たことを踏まえて、一言感想をお願いします。

(委員)

素案を確認し、コロナ禍から様々な活動の幅が狭まっていましたが、段々と以前の子育ての状況に近づいてきたことを感じました。

災害が身近に感じられる近頃は、素早く0歳児や1歳児を避難させることが、こども園や保育園の課題として挙げられます。コロナ前のように、地域の方や民生委員の皆さんと連携できる（内容が載っている）計画になっていて良いと思いました。

(委員)

燕市こども計画だけでなく、第3次燕市学校教育計画の策定にも携わっていますが、燕市の「こどもを育てよう」という気持ちが両方の計画から伝わってきました。2つの計画の策定委員をすることで、燕市は子育てをするのにとっても良い市だと実感しました。

唯一心残りの点は、一番議論すべき最終段階が紙面決議で行われた点です。それ以外は、事務局の皆さんが時間を割いて、調査や校正を行った点について感服するばかりです。ここまでお疲れ様でした。

(委員)

会議に参加して、様々なサービスや事業が燕市のこども達を支えていることが分かりました。これからも燕市のこども達が生き活きと成長するために、この計画に沿っていけると良いと思います。

先程の意見と同じく、保育士をしていて、コロナ禍がこども達に与える影響は大きかったと感じています。地域の方とも繋がっていけるよう、頑張っていきたいと思います。

(委員)

膨大な資料を見て、真摯に（子育て支援事業を）行っていると分かりました。こども家庭庁ができて、どのように変わるのか気になっていましたが、素案を見ることで、具体的に分かりました。

孫が「こどもから贈る『ありがとうのプレゼント』事業」でお花を持ち帰ってきました。様々な家庭の事情により、母の日や父の日のプレゼントを行わなくなりましたが、家族で楽しませていただきました。ありがとうございました。

(委員)

燕市で中学生、小学生、保育園児を育てる当事者として、これだけの計画がこどものために作られていると分かり、有難い気持ちになりました。これからもこども達が燕市でのびのび暮らしていけるように、この計画に沿っていけると良いと思います。よろしくお願いま

す。

(委員)

資料を読むと、今の燕市の現状が調べられていて、住んでいるだけでは分からないことも知ることができました。皆さんの苦労の上に子どもや親達がいると分かりました。

(委員)

別の市町村で子育てしていますが、自分の住んでいる市町村と照らし合わせたことで、燕市は子育てについて充実していると感じました。

労働組合の立場としては、たくさんの取組が行われている中で、令和 11 年度に区切りをつける取組が少ないと思います。こどもの数が減っている中で、どのようにバランスをとっていくのかという視点も大切だと思います。働く人の立場になり、どの取組を減らしていくかという視点も大切にすると、持続可能な燕市になると思います。

(委員)

上の子が今 10 歳と 9 歳で、(上の子が生まれた時も) 燕市は子育て支援や施設が様々ありました。昨年第三子を出産し、上の子達のと看以上手厚い支援や施設があり、10 年程で燕市がこんなにも子育てしやすい市になったと感じました。周りでも、燕市は様々な子育て支援があるから戻ってこようかな、引越そうかなという声を聞きました。今後もそのような考える人が増えることで、人口増加や活気溢れる燕市になると良いと思います。

燕市子ども計画も今後燕市がより良くなるような内容が盛り込まれていて、資料にはこれまでの活動も掲載しています。会議に出席することで、様々なことを知ることができて良かったです。

(委員)

資料から、たくさんの取組を考えていることが分かりました。

私は第二子が生まれたときに燕市へ引越してきました。育児に必死で、ほとんど周りが見えていない状況でしたが、上の子がこども園へ入園してからコミュニティも広がり、周りが見えるようになると、燕市はこどもを育てやすい市だと感じました。今こどもは小学校に通っていますが、特に期待しているのはハレラテつばめです。

こども達は活き活きとのびのびと、保護者は元気に子育てできるような取組が行われていますが、保護者の私達も(このような取組を)利用しながら、元気に子育てしていきたいと思っています。

(副会長)

皆さんの尽力のおかげで良い計画ができたと思います。

地方創生会議で、「人口減少を止めることはできないが、人口が減らないように目標を定めて努力したり、少ない人口で成長できる方法を考えたりしていきましょう」と話がありました。この考えは何に対しても大切だと思います。高い目標を立てて下方修正することがないようにするべきだと考えています。

他の計画も同様ですが、パブリックコメントが少ないと思います。このままで良いのでしょうか。対して、燕市議会からは質問が13個ありました。こども計画に注目してもらえることは有難いことだと思いました。

(会長)

事務局から一言ありますか。

(事務局)

有難い言葉をたくさん頂き、感激しました。今後気を付けていくべき点についての指摘もありましたので、注意しながら計画の運用を進めていきたいと思いました。ありがとうございました。

(会長)

計画(素案)の8ページにあるように、計画の期間中であっても、法制度が改正された場合や社会状況等が生じた場合は、必要に応じて計画内容を見直すこととしています。計画と実態の乖離が生じる可能性もありますので、その時には皆さんからの忌憚ない意見をもらいながら、計画で立てた目標を達成させていくと同時に、状況に応じて臨機応変に取り組んでいきたいと思っています。

(2) 令和7年度の保育園・こども園・児童クラブの申込状況について

→資料2に基づき説明

(委員)

来年度から第三ができる児童クラブは3年生以上が入所するのですか。

(事務局)

第一から第三まである児童クラブでは、第一が1年生、第二が2年生、第三が3年生から6年生が所属します。第一と第二のみの児童クラブは、第一が1年生と2年生、第二が3年生以上の児童が所属します。

(委員)

そのような分け方には根拠があるのですか。

(事務局)

国が示している放課後児童クラブ運営方針では、一支援の単位を構成する児童数は、概ね40人とされています。「70人を超えない範囲」が目安として提示されていますので、燕市も超えないように人数を設定しています。

4 その他

(事務局)

「乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）」の説明

(会長)

質問や意見はありますか。

(委員)

こども誰でも通園制度は、要支援と要支援ではない家庭のこども（保育園に慣れさせるため、リフレッシュのため）の両方からの利用があるかと思いますが、利用料の違いはありますか。

(事務局)

保護者からの利用料に関しては、1時間あたり一律で300円程度徴収することとなっています。減免制度は今後国から示されると思います。

また、利用料ではありませんが、事業者へ公定価格として市から支払う部分については、障がい児、要支援家庭のこどもを受け入れる場合は、こどもは1人あたり400円を加算した額が補助される予定です。

(委員)

事務局の意見のとおり、現在一時保育を行っている園がこども誰でも通園制度を行いやすいと思います。

利用したい場合、こども誰でも通園制度を優先し、月10時間を超える時間は一時保育を利用するというイメージですか。

(事務局)

一時保育とこども誰でも通園制度のすみ分けですが、先行して実施している自治体から

は、こども誰でも通園制度を利用し、月 10 時間を超える部分については一時保育に切り替えて利用しているという報告がありました。

(事務局)

今後基準を定める中で変更等があるかもしれませんが、予定では公立園 2 園から始めていきます。

(事務局)

「小池保育園と水道町保育園での一時保育の実施」と「よしだ保育園に併設する子育て支援センターの変更点」の説明

(委員)

吉田児童センターによしだ保育園子育て支援センターが移転すると、プレイルームのみが子育て支援センターとして使われるのでしょうか。

(事務局)

プレイルームに拠点を置いて実施していくことを考えています。

現在吉田児童センターのプレイルームは小学生未満のこども達が利用できるスペースです。怪我の防止の観点からもすみ分けていきたいと思います。

(会長)

現在よしだ保育園子育て支援センターは平日の昼間が開館時間だと思いますが、吉田児童センターに移転することで施設の開館時間に変更はありますか。

(事務局)

よしだ保育園子育て支援センターは、午前中の時間帯に園内の一室で開館し、親子で来館できるようになっています。午後は相談対応のみ受け付けている状況です。吉田児童センターへ移転した場合、児童センターの開館時間に合わせて支援センターも開館しますので、来館できる時間が長くなります。

(会長)

休日も開館しますか。

(事務局)

休日も吉田児童センターの開館に合わせるため、土日も子育て支援センターを利用できます。吉田児童センターの休館日は火曜日のため、水曜日から月曜日まで開館することにな

ります。

(会長)

最近ではお父さんが子育て支援施設を利用することも多くなっています。子育て支援センターを児童センターに移転すると、平日一日中遊ぶことができ、土日にも来館できるようになるため、利用者層が変わることが予想されます。また、平日の夕方や土日に利用できることで、新たな親子の居場所にもなると思います。

場所は変わりませんか。

(事務局)

近くです。

(委員)

歩くと少し距離がありますが、同じ小学校区です。

(会長)

駐車場はたくさんありますか。

(委員)

少ないですが、近くにある公民館や図書館、保健センターの駐車場を利用できるならば問題ないと思います。

(事務局)

近くに大きな駐車場があるため、困ることはないと思います。

(会長)

移転することでプラスに働くところも多くあると思いました。良い展開になることを期待しています。

5 閉会